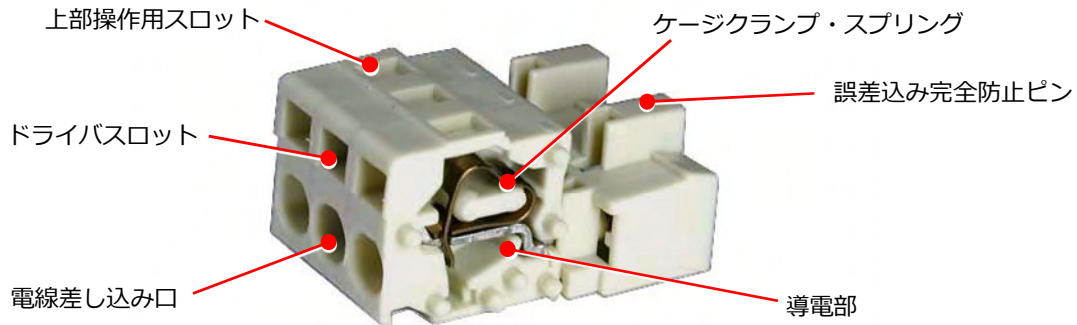


結線作業説明書

ケージランプコネクタ MCS MIDI 721、723シリーズ

■構造 コネクタの構造及び各部の名称を下図に示す



■使用工具

必ず正しい工具をご使用ください。

●専用ドライバ

- ①210-720… 標準型
- ②210-120J… 標準型
- ③210-657J… ミニサイズ



●操作レバー

231-131……指操作用



●専用工具

210-250J1…専用ペンチ



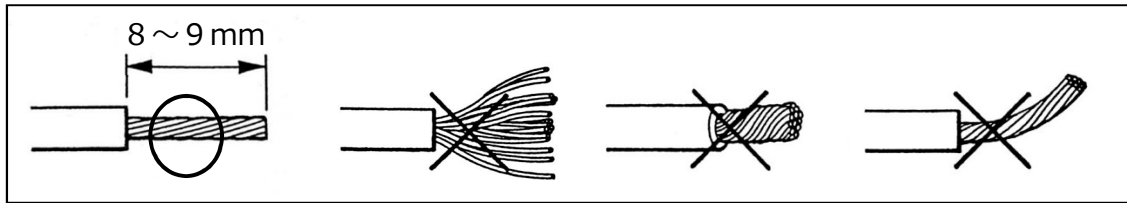
ワイヤストリッパは、むき長さが守れ、電線を傷つけないものをご使用ください。

●ワイヤストリッパ (推奨)



206-1125 (クイックストリップバリオ)
……電線の切断と皮むきが一台で行えます。

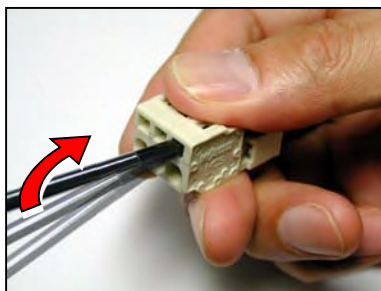
■ 電線のむき出し ○必ず規定のむき長さを守ってむき出してください。



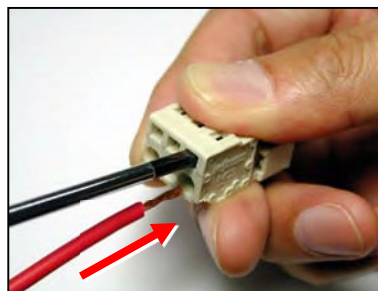
■ 結線作業 ○下図に従って作業してください。

★一つの電線口には原則として一本の電線のみ結線可能です。

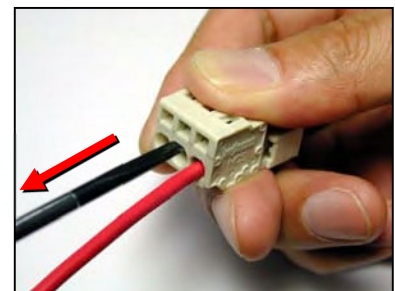
● ドライバを使用する場合_その1 (フロントエントリー)



① ドライバを操作用スロット (角穴) に差し込みます。正しく差し込めばドライバは保持されます。



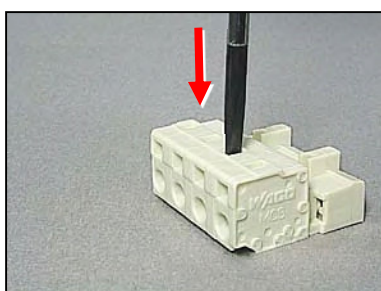
② 正しくむき出した電線を電線挿入口(丸穴)に突き当たるまで差し込みます。



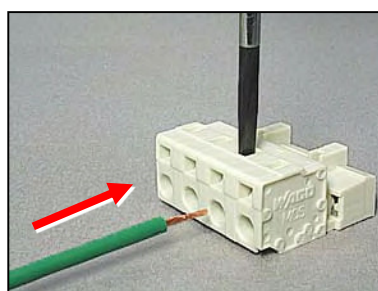
③ 確認のため、電線を軽く引っ張ってください。(強く引っ張らないでください)

■ 離線作業 ○結線作業と同様にドライバを差し込めば、電線を取り外せます。

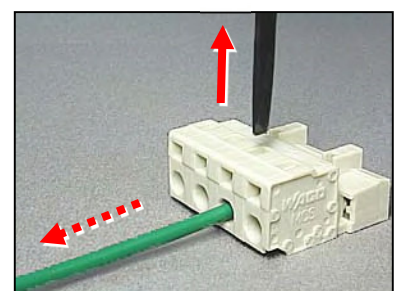
● ドライバを使用する場合_その2 (サイドエントリー)



① 専用工具ドライバを上部の操作用スロットにあて、スプリングを押し下げます。



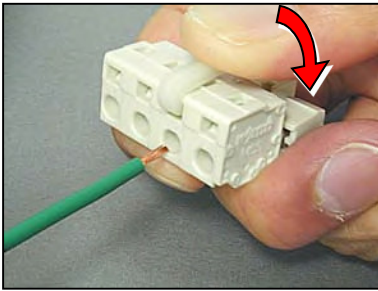
② 正しくむき出した電線を電線挿入口(丸穴)に突き当たるまで差し込みます。



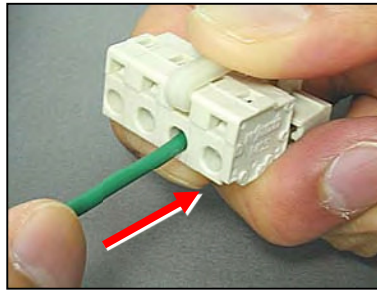
③ ドライバを放すと結線できます。確認のため、電線を軽く引っ張ってください。(強く引っ張らないでください)

■ 離線作業 ○結線作業と同様にドライバを差し込むと、電線を取り外せます。

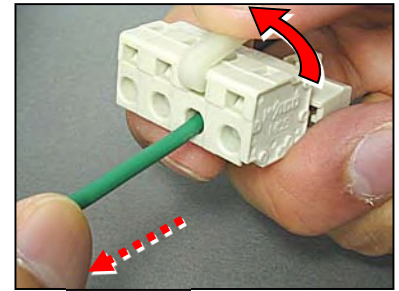
● 操作レバーを使用する場合。



① 上部の操作用スロットに取り付けた操作レバーを指で押しスプリングを押し下げます。



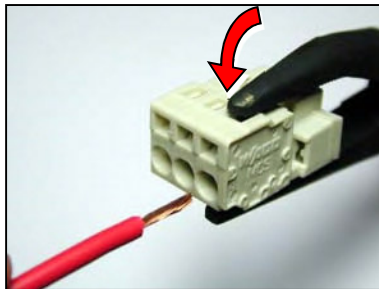
② 操作レバーを押したまま、電線を電線挿入口(丸穴)に突き当たるまで差し込みます。



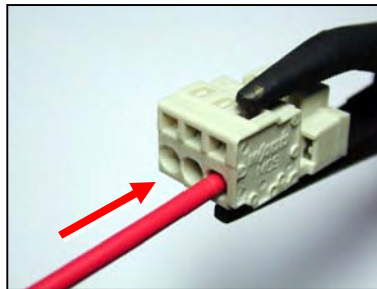
③ 操作レバーを放せば結線できます。確認のため、電線を軽く引っ張ってください。(強く引っ張らないでください)

■ 離線作業 ○ 結線作業と同様にレバーでスプリングを押せば、電線を取り外せます。

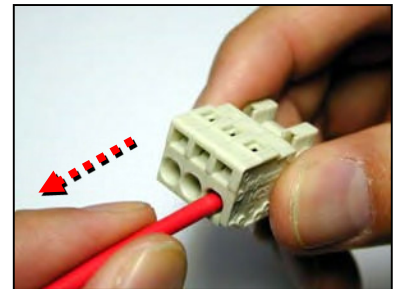
● 専用工具 (ペンチ) を使用する場合。



① 専用工具(ペンチ)の突起部を上部の操作用スロットに入れ、スプリングを押し下げます。



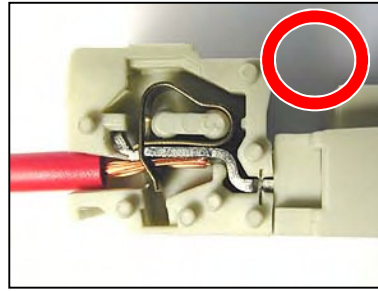
② 正しくむき出した電線を電線を電線挿入口(丸穴)に突き当たるまで差し込み、工具を放せば結線できます。



③ 確認のため、電線を軽く引っ張ってください。(強く引っ張らないでください)

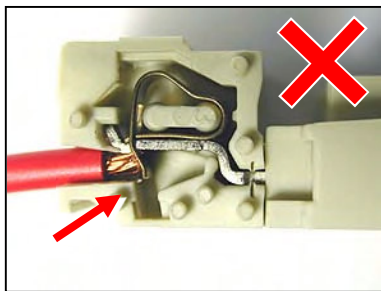
■ 離線作業 ○ 結線作業と同様にペンチでスプリングを押せば、電線を取り外せます。

■ 結線作業時の注意事項

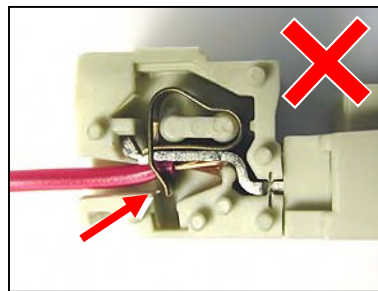


正しく結線された例

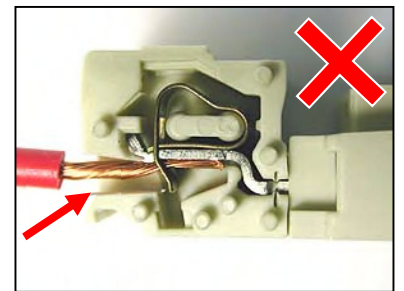
1. 電線のむき長さは、必ず守ってください。



むき長さが短く、電線が正しくクランプされなかった場合。通電不良、発熱の恐れがあります。

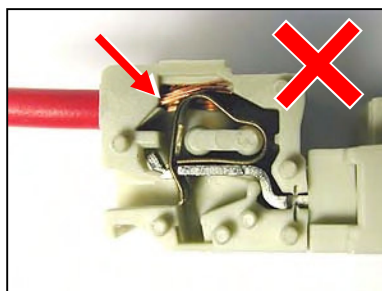


むき長さが短く、電線の被覆をかんでしまった場合。通電不良、発熱の恐れがあります。

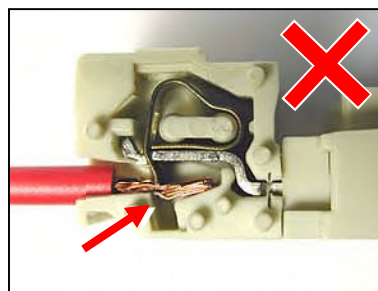


むき長さが長く、電線が露出してしまった場合。絶縁不良、ショートの原因となります。

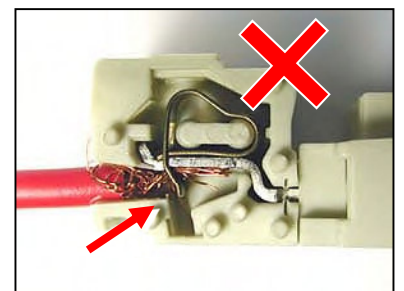
2. スプリングとハウジングのすき間には絶対に電線を差し込まないでください。



誤ってドライバスロットに電線を差し込んだ場合。導電部に接触しないので、通電不良、発熱の恐れがあります。



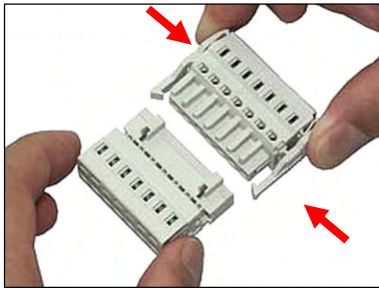
誤ってスプリングの下に電線を差し込んだ場合。導電部に接触しないので、通電不良、発熱の恐れがあります。



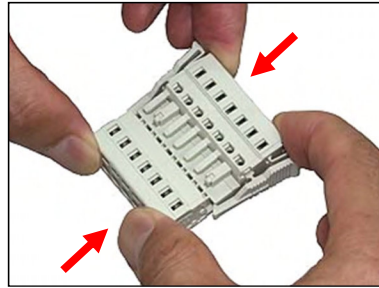
挿入時に電線がバラけてしまった場合。絶縁不良、発熱の恐れがあります。

3. 電線のバラケに注意してください。

■ ロッキングデバイス付フィメールコネクタの取り付け

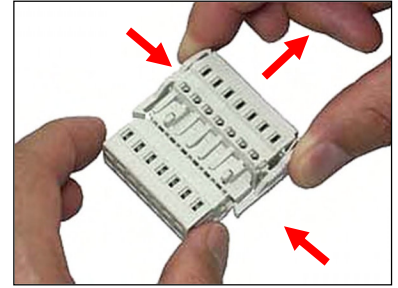


① ロッキングデバイスを両側からつまみ、ツメを開きます。



② ヘッドにまっすぐ奥まで差し込み、両側から押込んで嵌め込みます。

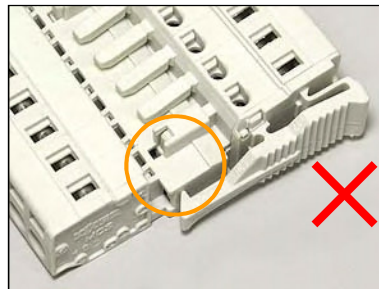
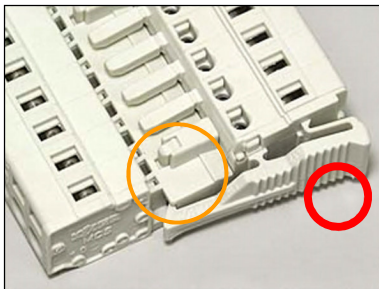
■ 取外し



ロッキングデバイスを両側からつまみ、ツメを開いてまっすぐに引抜きます。

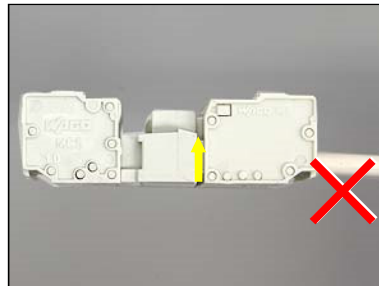
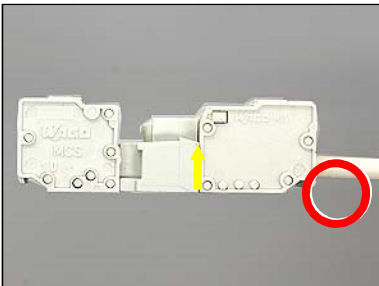
※ 嵌合時の注意

ロッキングデバイス付フィメールコネクタ + メールコネクタ



ロッキングデバイスのツメが両側ともメールコネクタの溝にかかっていることを確認してください。

フィメールコネクタ + メールコネクタ



フィメールコネクタとメールコネクタの間にすき間がないことを確認してください。